中国の日系3工場買収

マッコーニホールディングス

グループ生産能力を増強

高級婦人服などを製造しているマッコーニホールディングス（東京、曾芸文社長）は、上海の日系縫製工場3社を買収し、傘下に入れた。これにより、欧州有力アパレルメーカーがジャケット生産を東欧から中国にシフトしている動きに対応する。一方で受注が好調な蘇州マッコーニの生産安定化のため自社生産能力を増強し、3工場の既存優良顧客との取引も深耕する。

3社は上海青菱高級時装、上海森山制衣、四国時装で、いずれも四国ソーイング傘下の中国工場だった。四国ソーイング持ち分株式を同ホールディングスがすべて買収し、上海青菱高級時装は90％出資、上海森山と四国時装は全額出資の子会社となった。董事長には伊藤弘司マッコーニインターナショナル営業本部長が就任する。

同グループは日本のほか、欧州や米国の有力アパレルメーカー向け生産やOEM（相手先ブランドによる生産）事業を行っている。中国には江蘇省蘇州市に主力生産拠点である蘇州マッコーニがある。

3工場のグループ入りに伴う総経理などの経営陣、工場名、資本金の変更はない。3工場の受注体制は従来通りだが、「状況に応じて今後、グループ全体の最適な受注体制を構築する可能性もある」としている。生産効率向上のため、設備更新や新規設備の導入も検討している。

傘下入りした3社の概要は次の通り。

上海青菱高級時装＝出資金300万ドル、山本隆彦総経理、ミシン400台、従業員320人。重衣料のほかレディス全般を年間24万枚生産。

上海森山制衣＝出資金120万ドル、山本隆彦総経理、ミシン280台、従業員130人、レディスやカジュアルウエアとメンズを年間9万枚生産。

四国時装上海＝出資金100万ドル、北原春生総経理、ミシン280台、従業員200人、軽衣料のほかレディス全般を年間24万枚生産。